

# 名古屋市SDGs推進プラットフォーム交流会（第1回）開催報告

令和4年7月1日、名古屋東京海上日動ビルディング 2階 ABホールにて名古屋市SDGs推進プラットフォームの第1回交流会が開催されました。当日は、プラットフォーム会員の43団体にお集まりいただき、連携事例の共有やグループワーク、名刺交換会などを通して会員間の交流を深め、SDGsの達成に向けた連携の機運が高まりました。

## ●主催者挨拶 /名古屋市総務局企画部 主幹

当プラットフォームは令和4年6月末時点で350団体（申請中含む）に会員登録していただいている。このたび、会員間の交流や連携を深めていただくことを目的に交流会を企画した。今回は「連携候補と出会う」をテーマとして参加団体のグループ分けを行った。次回はアンケート結果を元に、より会員同士の連携につながるようなグループ分けを行っていきたく考えている。今回、次回とも連携の好事例を紹介させていただくので、連携に向けたヒントが見つかり、ひとつでも多くの連携事例が生まれることを願っている。

## ●SDGsでつながるパートナーを見つけよう！ コーディネーター：栗田 恵世氏 / JPコーチ&コンサルティング（株）

### ▶ 連携事例の紹介

#### 株式会社ハンズコーポレーション 青野氏との対談より

不登校や引きこもりの子ども達を社会に戻し、将来納税のできる大人にしていくことが、地方創生や地域活性化につながる。そのために色々なフリースクールを見学したが、子ども達は1日ずっとスマホを見て過ごし、時間になったら帰っていく。これでは社会に戻れないと思った。そこで、「本当に社会に戻れるフリースクールを作りたい。」という話を周囲にし、愛知中小企業家同友会でも同様の話をしたところ、賛同してくれる人達が集まって来てくれ、トントン拍子に事業化が進んでいったという経緯がある。

フリースクールの開校にあたっては、2つの法人の力を借りた。1つは、一般社団法人スポーツひのまるキッズ協会である。この法人は「親子の絆」をメインの考え方に持っており、例えば小学生の柔道大会でも試合の前後から表彰式に至るまで、親子と一緒に試合に臨むという姿勢を一貫している。もう1つは、一般社団法人YUMEである。YUMEは、生徒を救うのはもちろんではあるが、モンスターペアレントへの対応や職場の人間関係等で疲弊してしまった先生を輝かしいステージ（社会）に戻したいという理念がある。この2つの法人をくっつけたら面白い事ができると思い、それぞれの代表理事に「一緒にフリースクールをやらせてほしい。」という話をし、ひのまるキッズYume Schoolは開校できた。Yume Schoolの特徴は、「アトラクション型フリースクール」を謳っており、愛知中小企業家同友会の仲間たちにアトラクション型授業の協力してもらっている。例えば、VR体験授業では、協力企業に360°カメラを持って来てもらって、子どもと一緒に映像を作ったりする。あるいは、プログラミングの授業では、小型のロボットを持って来てもらい、子ども達がプログラミングをすることで、ロボットがしゃべったり、踊ったりするのである。また、当社はリラクゼーション事業を行っているので、マッサージの職業体験してもらったこともある。



栗田氏による連携の基本ルール説明



(株)ハンズコーポレーション代表 青野氏



企業・団体に事業に参画してもらい、連携を実現させるために必要なことは、情熱1本勝負である。SDGsで何かをしたいけど、何をやったらいいかわからない企業・団体に話を持っていくと話が進みやすい。現在、話を進めている連携も数多くあり、「不登校の子どもを社会に戻す」という課題解決にいろいろな企業・団体が乗ってきてくれている。

今後のビジョンは、名古屋地域の問題を解決していくこと。不登校の問題もリアルな登校だけでなく、メタバースをきっかけに学校へ入り、授業に出席し、そこから家を出て、実際に登校できるようにしていく構想もある。また、ひのまるキッズ柔道大会は全国13ヶ所で行っているが、1年に1回それぞれの地域で大会を行うだけでなく、そこにフリースクールを

作って不登校の問題を始め、地域の問題を解決していける場所を全国13ヶ所に作りたい。プラットフォーム会員の方々にも工場見学や職場体験など「体験」をキーワードにご協力をいただくと活動がさらに広がりそうである。私自身、以前は課題解決に向かって全部を自分でやろうとしていたが、一人では出来ないことに気づいた。今は周りの企業・団体に賛同・参画してもらい、事業を行わせてもらっている。

### ▶ 対談総括（栗田氏より）

青野社長は5年前に出会った頃は全てを自分で背負って問題を解決していこうとするタイプの社長だった。今はいろいろな人と連携、力を合わせて大きな成果をあげていこうという方向へシフトチェンジした印象がある。プラットフォーム会員の皆様も1社では出来ない事もあるが、2社、3社での連携やプラットフォームのスキームを使って出来る事を想像しながら、交流会に参加していただけるとよいと思う。

## ●グループワーク

### 【ファシリテーター（東京海上日動火災保険㈱社員様）からの報告】

#### ▶ Aグループ

「節水」、「健康とホテル」、「小・中学校との連携授業」、「フリーペーパーでの情報発信」などのテーマで盛り上がった。

#### ▶ Bグループ

団体を代表して交流会には参加しているが、一個人のSDGsへの想いから話を広げていってもよいのではないか、という意見に共感した。

#### ▶ Cグループ

論議のキーワードは、「教育」、「ゴミにならない素材を使用することによる環境配慮」、「LGBTQ」などであった。

#### ▶ Dグループ

一番多く出たキーワードは、「イベント」。子ども向け、スポーツ、映画、商店街、ゴミ拾い、MICE（学会）など。「VR」にも関心が高い。

#### ▶ Eグループ

目標12「つくる責任、つかう責任」から一歩踏み込んで、「捨てる責任」をどう考えるかが大きな論議のテーマとなった。

#### ▶ Fグループ

ジェンダー（女性の平等）やパートナーシップを目標に掲げている団体があり、全体的にSDGsの推進について意識の高さを感じた。



Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ



Eグループ



Fグループ

## ●名刺交換会



### 【参加者の感想】

- ・リアルで対話のできるイベントを待ち望んでいた。みなさん、目的意識を持って参加されており、熱量がすごかった。もっと自分たちの強みを鮮明化してアピールしていく必要性を感じた。
- ・新しい事業を始めており、いろいろなパートナーとつながることのできる場を設けて頂きありがとうございました。